

2014
Number
085

TAMA UNIVERSITY

Rapport

Contents

SRC2013 秋発表一覧 P.02

2013 年度地域プロジェクト発表祭 P.03

ゼミ活動報告

村山貞幸ゼミ・松本祐一プロジェクトゼミ P.04

片桐徹也プロジェクトゼミ・梅澤佳子ゼミ P.05

フットサル部 インタビュー

経営情報学部後援会「就職サポートセミナー」報告 P.06

キャリアサポート

第2回 多摩志企業探検バスツアー 報告 P.07

News

写真で見る 多摩大学の歴史⑧ P.08

多摩大学 フットサル部

<http://www.tama.ac.jp/smis/futsal/index.html>



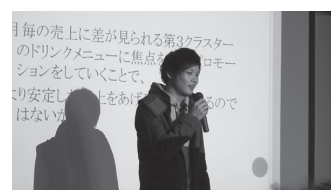
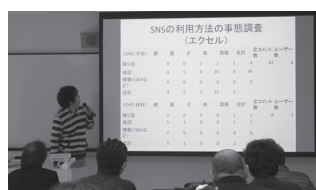
東京都大学フットサルリーグ 1部リーグ 第14節
2月18日(火) 東京体育館 対 東京大学さんばち先生

多摩大学では学生による研究発表会が年2回開かれています。SRC (Student Research Conference) と呼ばれ、研究発表をめぐり学生や教員からの質問が飛んできます。日頃の研究活動について切磋琢磨できる貴重な場です。

〈実施日〉2013年12月21日(土) 13:00～16:10 〈発表合計〉126件(ロング発表 9件、ミドル発表 55件、ショート発表 62件)
 〈参加学生〉678名 〈参加教員〉27名 〈発表時間〉【L】ロング:10分 【M】ミドル:6分 【S】ショート:3分

教室 101			
I 13:00～14:30			
岡崎 壮一郎	L	SPA コニクロと仕入型しまむらと比較分析する～財務データの方向から～	山原ゼミ
井上 海岬	L	市販業のインターネット販売解禁がもたらす購入チャネルの変化について	中村その子ゼミ
及川 美穂	M	1 Day Two Towers Tour in Tokyo	English Expression
石川 和樹	M	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト P 班	村山ゼミ
村松 彩花	M	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクトろろそくあかし班	村山ゼミ
長瀬 兼人	S	OB,OG 訪問プロジェクト	志賀ゼミ
宮崎 典明	S	サッカー FIFA ランキングと実際の強さ	大森拓哉ゼミ
島倉 由喬	S	日韓の家電イメージ	大森拓哉ゼミ
小澤 俊雄	S	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト J 班	村山ゼミ
苫米地康太	S	大学生のあがり性	大森拓哉ゼミ
川上 賢治	S	若者の海外旅行調査	今泉ゼミ
瀬上 健一郎	S	性格とストレスの男女による違い	大森拓哉ゼミ
森 沙織	S	犬の性格とイメージの研究	大森拓哉ゼミ
II 14:40～16:10			
井上 梨名	M	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト Z 班	村山ゼミ
田上 知樹	M	日本観光地の強みと弱み	バトルゼミ
田本 凌	M	外国人向けの観光ツアー案内	English Expression
喜田 貴人	M	ノマドワーカーのマーケティング戦略	バトルゼミ
王 星星	M	中国のエネルギーと環境問題	金ゼミ
コエンジェ	M	中国留学生の留学状況報告	今泉ゼミ
大塚 健太	M	アニメーション市場の課題 ～今後の展望～	バトルゼミ
山崎 優輔	M	「障がい者」に学ぶ今後の BOP ビジネス	バトルゼミ
村木 一美	M	One-day Tour in Tokyo for 2014	English Expression
教室 112			
I 13:00～14:30			
小形 希	L	モータースポーツとブランディング	バトルゼミ
飯森 灯	L	ダウンロード違法化による犯罪傾向の変化	齋藤ゼミ
榎 健介	M	プロ野球の誤審問題	スポーツII-F
根岸 美奈	M	部活動における指導者による言葉の暴力	スポーツII-F
松村 優作	M	中学・高校運動部における体罰一体罰解決への一考察	スポーツII-F
佐藤 陸	M	東京ヴェルディ地域発表祭	久恒ゼミ
宝田 梨恵	M	スポーツ GOMI 拾い	久恒ゼミ
和賀 勝哉	M	コンビニ 3 社と百貨店 3 社の売上比較	諸橋ゼミ
II 14:40～16:10			
春山 秀斗	M	コンビニ業界売上の変化	諸橋ゼミ
石田 直己	M	コンビニ業界の比較	諸橋ゼミ
生井澤知弥	M	スポーツ機会創出の可能性に関する研究～ポスト体育年代層に着目して～	杉田ゼミ
田林 翔太	M	スポーツ振興の本質 ～toto の認知度の現状～	杉田ゼミ
三ツ井瞬介	M	大学におけるスポーツ推薦	清松ゼミ
阿部 佑樹	S	スポーツにおける体罰	スポーツII-F
瀧田 湧仁	S	夏の体育館で快適に運動するために	スポーツII-F
中田 康平	S	新聞記事の比較	今泉ゼミ
中山 大輔	S	自動車業界の環境問題	今泉ゼミ
黒川 直樹	S	なぜ AKB は売れたのか	今泉ゼミ
高橋 健太	S	マネーボール理論でプロ野球を見るとどうなるのか	今泉ゼミ
森谷 涼介	S	J リーグの活性化	今泉ゼミ
五十嵐敦生	S	キウイフルーツ RS について	今泉ゼミ
松井 和也	S	スポーツのイメージ	大森拓哉ゼミ
鈴木 翔太	S	プロ野球 12 球団の総額年俸と実際の強さについて	大森拓哉ゼミ
太田 諭志	S	語法効果による商品 POP 戦略	大森拓哉ゼミ
教室 201			
I 13:00～14:30			
池上麻莉奈	L	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト N 班	村山ゼミ
下村 耕介	L	NPO 福祉亭から考察するボランティア組織論について	中庭ゼミ
真島 明誉	M	ドラえもんから考える昔話の良さ	梅澤ゼミ
山口 太朗	M	居酒屋の売上分析	諸橋ゼミ
廣瀬 直輝	M	20 代のお酒の好みの分析	諸橋ゼミ
木村 義隆	M	タバコのお好みについて	諸橋ゼミ
新井 貴博	M	多摩手土産の内容	久恒ゼミ
隅田 智明	M	高齢社会と娯楽施設～娯楽施設を活用したコミュニティ作り～	梅澤ゼミ
II 14:40～16:10			
長谷川宗真	M	食感の好みについて	諸橋ゼミ
山口 斗也	M	楽器の売上の変化	諸橋ゼミ
大石 展久	M	東京ディズニーランドのパーク内移動手段の必要性について	梅澤ゼミ
長澤 駿	M	ゆるキャラが地域にもたらす効果 厚木市のケース	諸橋ゼミ
多田 航平	M	居酒屋業界の仕組み	諸橋ゼミ
菅原 直希	S	ニートと経済の関係性	今泉ゼミ
菊池 和樹	S	トップバリュが売れている理由	今泉ゼミ
土井 涼太	S	レビューが及ぼす影響	大森拓哉ゼミ
武藤 瑞紀	S	報酬による人のやる気の変化	大森拓哉ゼミ
江間 宏路	S	シリアスゲームを利用した就職活動支援	出原ゼミ
井上 翔太	S	ロイヤルホスト全面禁煙による売上増加の可能性	今泉ゼミ

岡崎 翔一	S	千代田区の子供と人口の動き	今泉ゼミ
黒柳 淑雅	S	一人暮らしと実家暮らしの生活能力	大森拓哉ゼミ
小泉 咲希	S	動物の色と性格の関係性	大森拓哉ゼミ
勝沢 鴻平	S	単位修得数と生活環境の関係性	大森拓哉ゼミ
教室 211			
I 13:00～14:30			
山田圭太郎	L	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト TM 班	村山ゼミ
岸山 祐基	L	史料見学で学んだ松本と諏訪の歴史・地域的特性	大森映子ゼミ
田代 尚誉	M	多摩大学まで歩こうプロジェクト	小林ゼミ
平林 佑太	M	ソーシャルゲームの変貌	諸橋ゼミ
須田 勇大	M	J-POP の歌詞の分析	諸橋ゼミ
渋谷 咲子	M	象印マホービンをマーケットレポート形式で分析してみた～財務データ～	山原ゼミ
岡田優之介	M	Twitter における情報発信の意識とモラルに関する研究	齋藤ゼミ
佐藤 俊介	M	聞こえる音と見える音の関係	今泉ゼミ
II 14:40～16:10			
高木 一樹	M	新聞各社の記事の扱い方の違い	諸橋ゼミ
小林 一希	M	コーチングと心理学	飯田ゼミ
宮下 博章	M	小田急グループの中期経営状況の考察～財務データの主要指標から～	山原ゼミ
坪田 優樹	M	国内自動車の売上変化	諸橋ゼミ
菅井 洋平	M	企業における個人情報取り扱いに関する研究	齋藤ゼミ
渡辺 沙季	S	ミュージックマシンの制作 第 1 班	彩藤ゼミ
廣瀬 拓哉	S	ミュージックマシンの制作 第 2 班	彩藤ゼミ
吉田 綾香	S	ミュージックマシンの制作 第 3 班	彩藤ゼミ
中根 悠二	S	ミュージックマシンの制作 第 4 班	彩藤ゼミ
正田 凱大	S	ミュージックマシンの制作 第 5 班	彩藤ゼミ
田中 暁文	S	iPhone と Android	今泉ゼミ
雨笠正太郎	S	同調実験 (前の人につられて挨拶をするのか)	大森拓哉ゼミ
湯澤 健太	S	5 感を封じる場合封じない場合	大森拓哉ゼミ
佐々木景輔	S	ディズニーランドのバリアフリーにおけるホスピタリティ	梅澤ゼミ
種真 正義	S	今の子どもたちは、ゲームに依存しているか?	今泉ゼミ
池田 周平	S	アッシュの同調実験	大森拓哉ゼミ
小池 賢太	S	マルチ商法になる心理	今泉ゼミ
教室 212			
I 13:00～14:30			
吉戸有吏沙	L	村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクト R 班	村山ゼミ
佐竹 哲生	M	インキュベーション施設における創業実現と支援方法の関係について	中庭ゼミ
荒木 健太	M	クライアントサイドスクリプトを利用した料理レシピ人数変更システム	出原ゼミ
松井 拓馬	M	SNS 利用方法の実態	諸橋ゼミ
小宮 彬史	M	待機児童問題について	諸橋ゼミ
堀 杏子	M	ゲーム業界の未来 ～ゲーム技術の可能性を探る～	杉田ゼミ
岡部 綾菜	M	LINE 利用者による満足度 / 不満度	諸橋ゼミ
木村 名菜	M	Twitter の必要性を探る	諸橋ゼミ
II 14:40～16:10			
杉浦 綾	M	RaspberryPi でのサーバ構築、及び Twitter 連携	中村有一ゼミ
高橋 健太	M	短所を長所に言い換える	諸橋ゼミ
大塚 隆広	M	加速度体験型装置	出原ゼミ
吉岡健太郎	S	多摩エクセレントカンパニー	久恒ゼミ
小高 稔史	S	日常に潜むパラドクス	今泉ゼミ
杉崎 泰山	S	危険なアプリ	今泉ゼミ
園江 光	S	10 の実験とその相关性	大森拓哉ゼミ
安田 直人	S	大学のイメージ調査	大森拓哉ゼミ
村木 優子	S	LINE ゲームアプリの HIT について	今泉ゼミ
朝倉 啓	S	TPP が産業に与える影響	今泉ゼミ
河野 純一	S	ダブルバインド	大森拓哉ゼミ
阿部 佑樹	S	じゃんけんによる心理	大森拓哉ゼミ
竹下 佑馬	S	CM での著名人による宣伝効果の有無について	今泉ゼミ
神田 大樹	S	扱きたてコーヒー導入から見るコンビニ業界の戦略とこれから	今泉ゼミ
佐々木 翼	S	特定保健用食品の市場について	今泉ゼミ
大町 大	S	Eレベータ内における集団心理	大森拓哉ゼミ
白木 郷詞	S	スマートフォンと依存性の研究	大森拓哉ゼミ
奥村 太輝	S	市営プール繁忙期外のこれから	今泉ゼミ
野上 和紀	S	消費税からみる日本の未来	今泉ゼミ
見付 昂平	S	カリキュラ効果	大森拓哉ゼミ
猪野 慎	S	ミラーリング効果	大森拓哉ゼミ
豊島 鎮弥	S	検証! 多摩大フットサル部	今泉ゼミ
福西 和亮	S	クールジャパンはどうなるか	今泉ゼミ



2013 年度 地域プロジェクト発表祭

2013年12月22日(日)10時～17時、多摩キャンパス101教室と201教室にて、多摩大学地域活性化マネジメントセンターが推進する「プロジェクト型地域学習」の2013年度成果発表会が開催されました。32プロジェクトに加えて、招待発表として奈良県の帝塚山大学が2プロジェクト、静岡県 の城南静岡高等学校が1プロジェクト、多摩市立諏訪小学校児童による発表などがありました。会場にはプロジェクトにご協力いただいた行政、企業、NPO、地域の方々も出席され、発表に対する質疑応答も活発に行われました。

101 教室		201 教室	
テーマ	ゼミ名	テーマ	ゼミ名
第 1 部			
志企業の会社案内プロジェクト [連携先] 弘久社、多摩信用金庫	久恒ゼミ、奥山ゼミ、 中村その子ゼミ、 志賀ゼミ、梅澤ゼミ、 中庭ゼミ	東京ヴェルディ応援プロジェクト [連携先] 東京ヴェルディ 多摩市てみやげプロジェクト [連携先] 多摩市役所	久恒ゼミ 久恒ゼミ
地域中小企業社史製作プロジェクト [連携先] 地域中堅企業	奥山ゼミ	スポーツ「ゴミ拾い」プロジェクト [連携先] 一般社団法人 日本スポーツ GOMI 拾い連盟	久恒ゼミ
多摩企業のインタビュー調査 ～多摩地域 Web Museum プロジェクト 2013～ [連携先] 弘久社、多摩信用金庫	中庭ゼミ	スポーツ祭東京 2013 多摩市のシティーセールス支援 [連携先] 多摩市国体推進室	松本プロジェクトゼミ
ジョイパッケリジャー プロジェクト [連携先] ジョイパッケリジャー株式会社	酒井ゼミ	グリーンライフプロジェクト [連携先] 多摩市立グリーンライフセンター、 恵泉女学園大学、一本杉公園みどりの会、 多摩グリーンボランティア森木会	梅澤ゼミ
「笑う門」プロジェクト [連携先] 東京家政学院大学、 株式会社グリーンベル 通所介護施設「笑う門」	酒井、松本 (多摩大総研)、 西口守・朝倉和子・ 山岡義卓 (東京家政学院大学)	諏訪小学校菜園プロジェクト [連携先] 多摩市立諏訪小学校	梅澤ゼミ
活・西東京プロジェクトでの事業所紹介活動 一産官大学ゼミの新しいつながりを目指して一 [連携先] 三幸自動車株式会社、西東京市、 株式会社ジェイコム東京	中村その子ゼミ	野菜バザーをしよう	諏訪小学校児童
第 2 部			
アメリカのデフォルトについて	荻野プロジェクトゼミ	近隣交流：七輪プロジェクト [連携先] 多摩市諏訪名店街、聖ヶ丘コミュニティセン ター運営協議会、一本杉炭やき倶楽部	梅澤ゼミ
サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営 [連携先] 株式会社サンリオエンターテイメント	松本プロジェクトゼミ	多摩うどんぼんぼこ、ひじり館を中心としたコミュニティデザイン [連携先] 社会福祉法人時の会、 聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会、他	梅澤ゼミ
浅草お祭りミュージアムコンテンツ作成プロジェクト [連携先] 浅草お祭りミュージアム	彩藤ゼミ	多摩大学マスコットキャラクター制作プロジェクト	梅澤ゼミ
富士・河口湖観光まちづくり企画プロジェクト	中庭ゼミ	多摩 4 大学キャンパスフェスティバルプロジェクト [連携先] 多摩市関戸公民館	梅澤ゼミ
招待発表			
高校生が創り運営するオンラインショッピングモールまなびや ～地元特産品を利用した新商品開発・商店街再開発プロジェクト参加			城南静岡高等学校
観光マップ作成の意義：観光資源を対象化			帝塚山大学 姜ゼミ
大学生が取り組むネットパトロール			帝塚山大学 姜ゼミ
第 3 部			
横浜 FC イベント [連携先] 横浜 FC	江頭プロジェクトゼミ	ニュータウン地域のお祭り連携運営 [連携先] ふるさと夏まつり実行委員会 (聖ヶ丘)	片桐プロジェクトゼミ
メディア実践論	木村プロジェクトゼミ	地域循環型エネルギー・次世代リーダー育成プログラム [連携先] 一般社団法人 多摩循環型エネルギー協議会	片桐プロジェクトゼミ
湯河原の地域活性化 一介護者うつへの提案～	インターゼミ 地域班	産官学連携プロジェクト 「わがまち学習講座～地域の未来をデザインする～」 [連携先] 多摩市役所、東京都市大学小池研究室	片桐プロジェクトゼミ
「三多摩壮士」はなぜ生まれたか？ ～自由民権運動にみる多摩の DNA～	インターゼミ 多摩学班	諏訪小ふれんず「英語で遊ぼう！」 [連携先] 多摩市役所	石川ゼミ
日本とユーラシアの交流 一飛鳥寺を手掛かりに～	インターゼミ アジアダイナミズム班	スマートユニバーシティ構想 一環境を考える学生の育成、地域への発信と貢献～	インターゼミ 環境・エネルギー班
BOP ビジネス入門講座	見山プロジェクトゼミ	顧客・従業員満足度に関する考察 ～多摩大生が企業を選ぶ際に重要視すること	インターゼミ サービス・エンター テインメント班



年間 300 回以上の訪問イベント、東京ミッドタウンでは集客イベントを実施

村山ゼミ「日本大好きプロジェクト」は、様々な日本の伝統文化に触れてもらい、多くの人が日本を理解し、心から「大好き」になってもらえることを目指して活動しています。訪問型イベントや集客型イベントを通して、紙漉き、藍染、狂言、影絵、紙芝居、三曲、箏、茶道、空手、柔道、水墨画、投扇興、書道、俳句かるた、将棋、竹鉄砲、南京玉すだれ、扇子作り、ちぎり絵、剣道など、各分野の専門家にご協力いただきながら、伝統文化を伝承しています。分野ごとに活動し、児童館・幼稚園・保育園などでの訪問型イベントは、年間 300 回以上、設立（2008 年）から 2014 年 3 月 31 日まで 1,305 回（予定）に及びます。また 2013 年に実施した大型集客型イベントは、7 月 7 日（日）七夕和紙キャンドルナイト（増上寺）、8 月 3 日（土）・4 日（日）二子玉川ライズ「伝統文化祭 2013 ～日本の伝統文化を楽しむ二日間～」、9 月 20 日（金）～23 日（月）東京ミッドタウン「和紙キャンドルガーデンー TOHOKU2013 ー」、11 月 8 日（金）・9（土）福島県須賀川「日本三大祭り 松明あかし「ろうそくあかし」」など。訪問イベントは児童館などに自らアプローチをして訪問先を開拓し、集客イベントはビジネスとして受注しています。東京ミッドタウンのイベントでは約 8,000 枚の手作りの和紙を用意しました。プロジェクトはまとめ役のプロデューサーを筆頭に、訪問イベント、開拓、集客イベント、広報、資金調達、会計、人事、総務など組織として形成され、56 名のゼミ生は各部署に所属しプロ意識とスキル、そしてマインドを鍛え上げます。



訪問イベント「紙漉き」



訪問イベント「ちぎり絵」

二子玉川ライズ「伝統文化祭 2013」

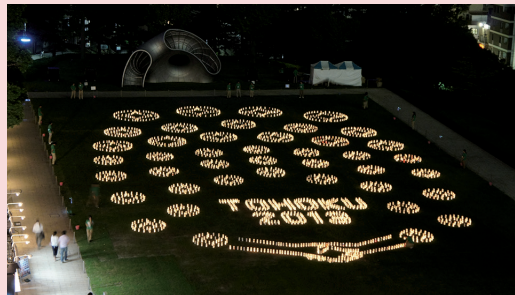
地域のふれあいと日本の伝統文化の継承を目的に、ショッピングモールの一部を利用して、昔ながらの遊びや芸能など 25 の催しを展開し、3,054 名が参加。専門家の日程調整に苦労したが、メンバーの協力、綿密なコミュニケーションで乗り切り、「子どもたちが自分たちに親しみを持ってくれた」、「お客様の笑顔が見られた」など楽しんでもらうことができました。



二子玉川ライズイベント「俳句かるた」で遊ぶ

和紙キャンドルガーデンー TOHOKU2013 ー

東京ミッドタウンでのイベントは 4 年目。「東日本大震災の事を忘れないでほしい、現状を知ってほしい、東北に来てほしい」この思いを全国の人に伝えて共有したいと考え、今年のテーマは「つながる」。ゼミ生たちは被災地 37 市町村を訪ね、自分たちで漉いた和紙約 3,000 枚にメッセージを書いていただきました。震災を体験した東北生活文化大学の学生は和紙キャンドルの配置をデザインし、東北学院大学の学生たちは東京 23 区内を歩いて約 350 枚の和紙メッセージを収集。当日は約 3,350 の和紙キャンドルとして並べ、会場では東北の学生たちが来場者に生の声を伝えました。4 日間の来場者数は 7,482 名、報告会では「気持ちが伝わったイベントでよかった」と評価していただきました。



「和紙キャンドルガーデン」左は東京、右は東北で集めた和紙メッセージ、中央で握手



メッセージが書かれた和紙キャンドル

ゼミ生のコメント

○プロデューサー、集客イベントのリーダー、マルチタスクで責任感を感じます。昨年先輩の苦労が分かりました。メンバーに支えられ、仲間のありがたさ大切さを感じています。(3 年・村山松花) ○多くの人にイベントを知らせ会場してもらうために、広報として 100 以上のメディアにアプローチ。自分が聞きし感じた被災地の状況を資料でどのように伝えればいいのか悩みました。電話では冷たい態度にめげそうになったことも。飛び込みで親身に聞いて取材に来てくれたメディアもあり、最終的にはテレビ 2 件、ラジオ 3 件、新聞 7 件に告知や取材で取り上げていただきました。(3 年・小原美咲) ○マルチタスクなのでスピードが大切だと思います。イベントの管理は大変ですが、支えあえる仲間感謝しています。(3 年・小澤俊雄) ○飛び込みなどに行きメディアへのアプローチは大変だと感じています。諦めずに辛抱強くアプローチする先輩方を見て、来年は自分たちが主体になってやっていかなければと思っています。(2 年・小西真奈美) ○いろいろな仕事を兼任し苦労はたくさんありますが、訪問イベントなどで出会った子どもの笑顔など経験は財産です。日本独特の文化という大切なことを子どもたちに教えているんだと意識して活動。とてもいい活動ができていると思っています。(3 年・佐藤俊彰) ○イベントを通して人とのつながりがたくさんできたと思います。二子玉川のイベント後、子どもから「また参加したい」といううれしい手紙をもらいました。(2 年・松山賢) ○先生、専門家の方にはいろいろなことを教えてもらい、頼れる先輩方が引っ張ってくれる。周りの環境に恵まれていると思います。3 年生になったら自分たちが主体となって動き、周りに感謝されるような立場になっていきたいと思っています。(2 年・藤田元気)



相手を思いやるマインドが大切

村山 貞幸 教授

①「学生の能力をはるかに超えるハードルの設定」一プロのイベント会社やプロの広報との戦いに勝ち抜く。②「膨大な作業量を与える」一年 300 回以上のイベントを実施。③「マルチタスク」一複数の仕事を同時並行的に行う。この 3 方針により、プロフェッショナル・マインドとスキルを磨きます。スキルでは、経産省主催の社会人基礎力育成グランプリ 2011 で全国優勝、100 大学の頂点に立ちました。しかし、ゼミはスキルより相手のこと、社会のことを考えるマインドを重視。その活動の一環として東日本大震災にこだわり続け、37 市町村を歩き、被災者と直接コミュニケーションをとっている。これが実践的「教養」教育となり、マインドを鍛えます。学生の志高い、社会的な活動がメディアにも共感され、NHK ニュース「おはよう日本」、FM 東京、J-WAVE、毎日新聞、The Japan Times、琉球新聞、岩手日報、福島民友などに取上げられました。「ON・ON・ON！」をキャッチフレーズにゼミ生は、体は休めても心は休まず、ひたすら走り続けます。その結果、毎年 7 月には 90% 以上の学生が就職で内定をとります。「努力が全てを解決する。」そう確信しています。

大学生を対象にクリスマスイベントを実施

サンリオピューロランドには、「子供向けの施設というイメージがあるため、高校生・大学生になると来園しない人が多い」という課題があります。ゼミの目的はイベントを通してこの課題を解決すること。ゼミ生は、サンリオピューロランドでフィールドワークを重ね、オープンキャンパスでは高校生のサンリオ体験をサポート、またサンリオピューロランド主催のダンスステージプロジェクトではスタッフとして企画・運営を体験、さらに雲雀祭ではSanrio caféを出店しイベント用資金を調達、イベントの企画・運営に向けて活動してきました。そして、2013年12月8日(日)19時～21時、夜のサンリオピューロランドを利用して、学内外の大学生や留学生などを対象としたクリスマスイベント「Our story～執事からの招待状」を開催。イベントのコンセプトは「メルヘンな世界でいつもと違う自分になれる」。来場者が参加するクイズや劇、立食などを用意し、63名が参加。キティの登場に歓声をあげ、参加者たちは昼間とは違った館内の雰囲気やイベントを楽しんでいました。最後は全員集合して記念撮影、終了後はアンケートで参加者のイベント満足度を調査しました。

2013年の活動

- 5月～8月 サンリオピューロランドの研究
- 6月 サンリオピューロランドでのフィールドワーク
- 6月～7月 プレイイベントの制作・実施
- 7月 オープンキャンパスなど学内活動への協力
- 8月 合宿(研究最終発表)
- ダンスプロジェクトスタッフ活動
- 9月 雲雀祭にてSanrio café出店
- 10月～12月 サンタイベント制作
- 12月 イベント開催
- 参加者アンケートによるイベント満足度調査



オープンキャンパスでサンリオ案内



来場者アンケートを実施



© 76, '14 SANRIO APPROVAL No.P0502182

来場者全員で記念撮影

片桐徹也プロジェクトゼミ

【地域循環型エネルギー・次世代リーダー育成プログラム】 「エネカフェ for young leader's」を開催

広報担当 3年 矢内 勝

2014年2月1日(土)永山ハウス(多摩市諏訪)にて、多摩大学3年生の小菅慧、長間裕一の“チームこなが”と“エネカフェ”が共催で行った「エネカフェ for young leader's」を開催いたしました。イベントの内容は、多世代の参加者が一緒に多摩ニュータウン地域の現状と将来あるべき多様なエネルギーについて考えるというもので、学生10名、地域住民22名の計32名の方が参加してくださいました。

現在、次世代リーダー育成プログラムでは、多摩地域に住む方々を対象としたエネルギー・環境教育、多世代交流を目的としたイベントを企画しております。

多摩大学生5名、他大学生・大学院生13名が7つのプロジェクトごとに実行に向けミーティングを重ね、成功させるために頑張っています。詳しい活動状況につきましては、Facebookページをご覧ください。https://www.facebook.com/ene.leader

※エネカフェとは、一般社団法人多摩循環型エネルギー協会が行っている再生可能エネルギーの啓発活動である。



イベントの様子

梅澤佳子ゼミ 諏訪小プロジェクト

バトルル バトルル准教授が諏訪小学校6年生の児童に講義

梅澤ゼミでは、多摩市立諏訪小学校との連携で地域活動を推進し、小学校の農園での野菜作りや野菜バザーでの販売などの活動を6年生担当の関 聡司 教諭や児童と行ってきました。昨年12月の多摩大学地域プロジェクト発表祭では、諏訪小学校の児童たちが「野菜バザーをしよう」のテーマで発表を行うなど、これまで交流を深めてきました。

この度は、諏訪小学校 関 教諭から児童の職業教育の一環として、「大学の講義を児童に」という要望があり、教育連携としての講義が実現の運びとなりました。

2014年2月21日(金)多摩キャンパス ラーニング commonsにて行われた講義のテーマは、「1.日本をめぐる世界潮流 2.日本人として、日本の未来を担う若者として何をすべきか」。

小学生には少し難しいテーマを、経営情報学部 バトルル准教授が分かりやすく丁寧な説明を加えながら参加の児童29名に講義を行いました。パワーポイントで作成したグラフや世界地図などを含むスライドを使っの講義を児童たちは最後まで熱心に受講しました。

講義終了後、関 教諭から充実した講義となったことへのお礼の言葉が述べられました。

講義開講にあたり、机や機材のセッティング、講義補助など梅澤ゼミ生が全面的にサポートしました。



バトルル先生の講義に耳を傾ける児童たち

多摩大学が一つになるシンボルとして、2012年4月、フットサル日本代表候補、プロ選手として活躍された福角有紘監督を招聘し、体育会「フットサル部」が誕生しました。今、フットサルが純粋に好きな仲間たちがアリーナに集まり、頂点を目指してがんばっています。

多摩大学フットサル部は設立1年目でJFA（日本サッカー協会）公認 東京都大学フットサルリーグ部に昇格、2013年度は優勝争いにも加わり、今年2月には一部リーグ3位というすばらしい成績を残しました。2014年度も活躍が期待されるフットサル部、そんなチームの姿と目指していること、今後の目標などを福角監督、キャプテンの中井響（2年）さん、顧問の杉田文章教授にお聞きしました。

○2013年度は好成績を残しました。振り返って何を感じますか？

福角監督「優勝を狙えるところまで行き、選手たちはよくやったと思っています。すごいことですが、もっとハイレベルのチームもあるので、冷静に自分たちのチームを分析する力をつけ、くずれない土台をつくり強い組織を作り上げていきたいと考えています」

○多摩大学フットサル部とはどのようなチームですか？

福角監督「現在、メンバーは1年生が9名、2年生が5名、4年生が1名、計15名が在籍しています。ほとんどがサッカー経験者ですが、中には全く経験のない選手もいます。フットサルはピッチの中での攻守の切り替えの速さが重要で、それをチームの強みに持っていこうと考えています。チームはまだ対戦相手によってはストロングポイントとして対応できていない場面もあり、発展途上です。攻撃的、守備的など選手それぞれに特徴があるので、ポジションは個々の良さが出るような割り当てをしています」



中井 響 さん

中井さん「高校までずっとサッカーをやっていて、フットサルは初めてでした。攻撃的ポジションで、チームを引っ張っています」

○監督が目指しているチームとはどのようなものですか？

福角監督「『オフザピッチ 日本一！』です。ピッチ外の行動で、「挨拶をきちんとする、時間を守る、仲間を思いやる、感謝の気持ちと謙虚な心」を大切にしよう指導しています。ピッチの外で気が緩んでいると、ピッチの中でも反映されます。また知識は絶対に必要です。大学の部活なので、学業を怠らずにフットサルで身体作りをします」

中井さん「フットサルを始めたことで練習時間を考えて生活するようになり、自分自身、毎日が充実していると感じています。キャプテンとしてオフザピッチを大事にし、メンバーにも浸透させようと、

気づいた時には積極的に声をかけて注意しています」

○選手たちがアリーナで練習する姿を見かけますが、どのような練習をしているのでしょうか？

福角監督「週5回、朝7時から90分の練習があります。心と身体を鍛えるために統合的トレーニングも取り入れています。フットサルは、認知、決定、実行を瞬時に行う頭脳的なスポーツで、そのためのトレーニングも行っているんです」



福角 有紘 監督

○選手に望むこと、また今後の目標についてお話しください。

福角監督「ピッチ外のマナーは厳しく指導しますが、ピッチの中では選手に大いに暴れてもらいたい。ぼくはアイデアを用意し、選ぶのは選手たち。だからピッチ上での判断は任せています。試合中は瞬時に決断する作業が多くあるスポーツなので、この能力は社会人になってからも必ず役に立ちます。今、チームはいい雰囲気なので、来年はもっともっとよくなるでしょう。ピッチ上でも日本一を目指し、勝利の喜びや充実感を味わってもらいたいと思っています」

中井さん「3年目となる来年度は今よりもっと上にいきたいし、勝利に貢献したいと思っています。エースが決めて勝つ、多摩大といえば中井、という勢いでやっていきたいです」



杉田 文章 教授

杉田教授「これだけの結果を出せたことは驚愕の事実で、監督の尽力と選手のがんばりによるものです。多くの教員が『フットサル部の活躍で大学の雰囲気が変わった』と実感し、他の多摩大生にも大きな影響を与えています。大学で生じた活力を大切に育て、ゆくゆくは多摩大学が大学フットサル全体をけん引するような存在になれたらと思っています」

2013年度 多摩大学経営情報学部「就職サポートセミナー」報告

3月2日（日）13時から多摩キャンパス101教室にて、多摩大学経営情報学部後援会向け「就職サポートセミナー」が開催され、会員の皆様86名の参加がありました。

後援会会長 米倉裕之様、経営情報学部 久恒啓一学部長の挨拶で始まり、3部構成で行われました。また、セミナー開始前の12時30分からは学内見学ツアーを実施し、ご父母の皆様が多摩キャンパス内各施設のご案内をいたしました。

○第1部 基調講演「多摩地域と中小企業の魅力」

多摩信用金庫 価値創造事業部 法人支援担当支援グループ 調査役 瀬古達弥 様

中小企業の魅力、大学時代にやっておくこと、志企業を選ぶポイントなどについて、ご自身の実感やデータなどを基に語りました。志企業を探すポイントとして、「地域企業の合同セミナーに参加したり、自宅近くにある会社を気にしながら歩いてみたり、企業に関心を持つことが大切」などのアドバイスがありました。

○第2部 パネルディスカッション

「多摩大学OB・OGが語る、多摩大学での4年間と現在～家族に伝えたい、社会で活躍するために今取り組んでほしいこと～」
パネリスト：瀬古達弥様（東京経済大学2006年卒）・川上良太様（多摩大学2006年卒）・清水大志様（多摩大学2010年卒）・渡部亜

裕子様（多摩大学2012年卒）コーディネーター：梅澤佳子准教授
社会人として活躍されている4名の方々に、「1.近況報告、2.学生時代の活動、3.就職活動体験談、4.ご父母の皆様にお伝えしたいメッセージ」について語っていただきました。会場からは、「採用された理由は？」「アピールするためのスキルやエントリーシートの書き方のアドバイスを」などの質問があり、パネリストはそれぞれの体験から返答。ご父母と就職活動体験者が直接意見交換できる貴重な時間となりました。

○第3部 交流会（学生食堂）

ご父母の皆様と教職員がゼミ活動や就職活動など、ご家庭と大学における学生の生活について情報交換を行い、和やかに歓談の時を過ごしました。



多摩信用金庫 瀬古様、多摩大OB・OGを迎えてパネルディスカッション

第2回 多摩志企業探検バスツアー報告

本企画は、多摩信用金庫様のご協力の下、多摩地域で今注目すべき優良中小企業を訪問し、学生たちが仕事の現場を体験すること、就職を自分事として考えられるようになることを目的とするものです。今年度は2013年10月18日(金)、21日(月)の2日間で6社を訪問しました。

参加学生数と訪問企業は、【1日目】11名参加(3年生9名、2年生2名)、株式会社武蔵境自動車教習所〔自動車教習所〕、株式会社藤和ハウス〔不動産〕、株式会社マイテック〔携帯販売〕、【2日目】11名参加(3年生5名、2年生3名、1年生3名)、株式会社小嶋工務店〔注文住宅〕、株式会社ニシカワ〔印刷・広告〕、株式会社ナガセ〔金属加工〕。

訪問先では、事業内容の説明や社内(現場)案内、会長や社長から各企業のこだわり、強み、今後の展望などお話しいただき、座談会などの機会を設けていただきました。また移動の車中では、多摩信用金庫 伊藤様のご指導のもとで、次に訪問する企業について情報を共有し、質問内容、立ち居振る舞い等々ご教示いただきました。学生からの相談や質問にも細やかにご対応いただき、今後の就職活動の参考となるアドバイスをいただきました。学生にとって大変充実した内容であったと思います。学生からは「仕事への取り組み方や自分に足りないことが実感できた」「就職活動を身近に感じることができた」などの感想があり、時間の経過と共に参加学生の顔つきがしまっていくのが実感できるバスツアーとなりました。



武蔵境自動車教習所にて集合写真



車中の戦略会議。右側は多摩信用金庫 伊藤様

3年生対象 学内合同企業説明会 開催

2013年12月13日(金)多摩キャンパスにて、3年生対象の「第1回学内合同企業説明会」が開催されました。IT・情報通信業、サービス業など様々な業種20社をお招きし、200名を超える意欲ある学生が参加しました。

『事前説明会』では全参加学生に対し、企業の採用担当者より会社PRを、『合同企業説明会』ではブース形式〔40分間の説明会を入替制で4回〕で事業内容や求める人材、採用計画などを詳細に説明していただきました。

「学内合同企業説明会」は、企業の採用担当者と直接話をすることで、インターネットや情報誌だけでは伝わりにくい会社の雰囲気を感じ取ることができ、また企業様には志を持ち就職活動に真摯に向き合っている多摩大生の姿を見ていただける機会となり、企業と学生をつなぐ出会いの場となっています。



合同企業説明会の様子

News

本学と台湾・開南大学との学術交流に関する覚書および協定締結について

2013年11月14日、寺島実郎・多摩大学学長と高安邦・開南大学学長がご出席のもと、両大学の学術交流に関する覚書および協定の調印式が台湾・開南大学にて開催されました。

開南大学は、2000年に台湾の桃園県に設立された私立大学です。学生総数は、2012年現在10,091名(このうち学部生9,364名、大学院生727名)、5学部(商学・運輸観光・情報・人文社会・健康管理)で構成されています。同大学は、積極的に海外大学との学術交流を進めており、2012年現在、15カ国の51の大学(含むMIT)と姉妹校を締結し、交換留学等学術交流を行っています。日本の大学とは、2003年から学術交流を始めており、現在は既に24の大学と学生の交換留学に関する覚書(MOU)を締結済みです。また、同大学は、実学・問題解決力を重視する教育理念を掲げており、中でも台湾航空大手の中華航空(China Airline)と提携している運輸観光学部は、大学構内に旅客機の機内設備を設けて本格的な研修を行うなど、そのユニークな取り組みが注目されています。

本学は、今回の開南大学との協定締結をきっかけとして、今後における両大学間の学生の交流を始め、双方が関心をもつ研究や教育分野において教員同士の活発な交流や情報交換が行われることを期待しています。



寺島実郎学長と高安邦学長 協定書交換



寺島実郎学長による講演会

グローバルスタディーズ学部主催

「グローバル化する観光産業の人材育成と活用」シンポジウム開催

2014年2月27日(木)グランドホテル湘南にて、グローバルスタディーズ学部主催「グローバル化する観光産業の人材育成と活用」シンポジウムが開催されました。

今後日本社会の観光を含めたホスピタリティ産業が必要としている人材育成、及び今後の観光の在り方についてご来場の皆様と考えることを目的とし、寺島実郎学長の基調講演およびグローバルスタディーズ学部の教育内容について説明し、142名の方に参加いただきました。

【プログラム】

- 安田震一学部長「学部紹介・今後の展開」
- 堂下恵准教授「おもてなしのグローバル化への貢献—多摩大学の教育現場から」
- 寺島実郎学長 基調講演
「時代認識と観光・ホスピタリティ~ Integrated resort (カジノを含めた統合型リゾート)の視座~」
- 懇親会



寺島学長による基調講演

2001年9月に就任した中谷蔵学長のもと、2002年度より全新生を対象にした「気づき教育『自己発見』」を開講しました。そこで得られた「気づき」、立ち位置の確認の上に、自らの文化を語ることでできる日本人として、世界の人たちとともにいかなる課題に取り組んでいかなければならないのか、を問いつける主体性を持った、グローバルに通用する「真のビジネス・プロフェッショナル」を輩出する専門教育を展開する大学の実現を目指しました。そうした構想の一環として、2007年4月、湘南の地に新学部、グローバルスタディーズ学部が開設されることとなりました。

中谷 蔵 名誉学長時代 (2)

日本を語れるグローバル人材を育てる ～イングリッシュ・シャワーと留学制度～

アメリカ留学経験のある中谷学長の英語教育に対する方針を反映して、イングリッシュ・シャワー（通称ES）が1、2年生対象の必修英語プログラムとして2002（平成14）年度に導入されました。多摩大生の1日は、朝の「英語のシャワー」を浴びることから始まり、1クラスは23人まで、授業中の使用言語は英語のみというコミュニケーション重視の授業が、週に4回展開されました。単に英語力を身に付けることにとどまらず、経営情報学部生に必須な対話能力、プレゼンテーション能力を修得することが目標とされました。

そして、そのイングリッシュ・シャワーで培った英語力を実際に海外で使用してみることを目的にT-SAP（Tama University Study Abroad Program）、多摩大学留学プログラムが、2003（平成15）年度より短期留学プログラムとして

スタートしました。学生は提携校ビクトリア大学（カナダ）、ポートランド州立大学（アメリカ）、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）で英語の授業を受けながら、1ヶ月間のホームステイ・寮生活を経験しました。2005（平成17）年には6ヶ月間の長期留学プログラムも導入され、上記の大学に加え、カリフォルニア州立大学ソノマ校とも提携校契約を結びました。長期留学プログラムでは、英語学習だけでなく、アメリカ人学生の日本語学習を手助けしたり、ホテルフロント業務のボランティア活動を通じ、日本とアメリカの接客の仕方の違いを体感したりと、実社会での体験学習も積極的に取り入れています。T-SAP 短期・長期留学には奨学金も提供され、学生の積極的な参加を促しています。

（大学教育改革への挑戦 多摩大学教育 20年史より）



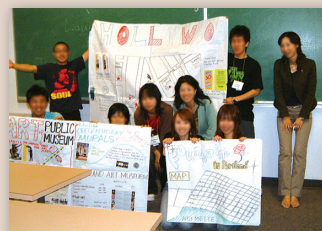
ES：授業風景



ES：異文化交流



ESプレゼンテーション・フェスティバル：
年度の最後に集大成として開催



T-SAP：提携校ポートランド
州立大学で学ぶ多摩大学学生

25th anniversary

多摩大学 25 周年記念事業

ファシリティ（新棟）の地鎮祭を執り行いました

2014年1月15日（水）友引、多摩大学25周年記念事業ファシリティ（新棟）の建設予定地にて、地鎮祭が執り行われました。

地鎮祭とは、建築工事などで工事を始める前にその土地の神（氏神）を鎮め、土地を利用させてもらうことの許しを得るとともに、工事の安全と建物の繁栄を祈る儀式です。

田村学園 田村嘉浩常務理事、寺島実郎学長をはじめ、株式会社東畑建築事務所 佐伯博常務取締役常務執行役員東京事務所長、北野建設株式会社 北野貴裕代表取締役社長、近隣自治会代表の方など、多くの皆様が参列し、安全に工事が行われ、未長く校舎を利用できるように祈願が行われました。ファシリティ（新棟）は、本年9月に竣工予定です。



地鎮祭 四方祓いの様子



田村嘉浩常務理事による鉄入の儀

多摩大学創立 25 周年記念事業募金のご案内

多摩大学は、2014年創立25周年記念事業として、多摩キャンパスに新たなファシリティ（新棟）の建設をおこない、さらなる教育環境の進化として「学生の学ぶ場」を創設します。

■募金の名称「多摩大学創立25周年記念事業募金」 ■募金目標額 1億円
■募金期間 平成21年6月～平成27年3月 ■寄付（募集）金額 一口1万円
三口以上のご寄付をいただいた方は全員（匿名を除く）のお名前を「多摩大学創立25周年記念事業寄付者銘板（仮称）」に記し、未永く顕彰します。

ご協力いただける方は、多摩大学ホームページからお申込み下さい。
<http://www.tama.ac.jp/>

※ご入金後、本学から送付される「寄付金領収書」と文部科学省の「特定公益増進法人証明書（写）」を添えて、寄付した翌年の確定申告期間に所轄税務署へ所得税の環付請求の申し込みをお願いします。寄付金が5万円を超えた場合、5万円を超える分（ただし、年間所得の40%が限度）について、課税所得から控除されます。免税手続きに必要な日本私立学校振興・共済事業団発行の「寄付金受領書」は本学を経由して寄付者にお送りいたします。

【お問い合わせ】多摩大学25周年記念事業募金事務局
TEL:042-337-7112（総務課内）
E-mail:soumu@gr.tama.ac.jp

25th anniversary